

# 島九条の会通信

TEL・FAX 058-231-5293

## 第66回例会のお知らせ（岐阜西、島、岐北、鷺山・ときわ、早田5九条の会合同例会）

毎年川北の4九条の会が持ち回りで行っている合同例会ですが、今年から「岐北九条の会」が加わり川北5九条の会合同となりました。その第1回目は岐阜西中学校区九条の会が主催で、下記のように開かれます。まだ残暑厳しい頃ですが、みなさん是非ご参加ください。詳しくは別紙チラシで。

内容 映画「WARmerikaの運命」を観て平和を考える」

日時 9月15日（日）午後2時より

場所 西部コミセン

## 第65回例会の報告

### ミャンマーは、その後どうなっているのか？

5月18日島公民館にて見出しのテーマでミャンマー問題について学習会を開きました。まず島九代表の田中良さんが、今のミャンマーを考えると胸が痛む。ミャンマーの人々の命懸けの戦いには心が熱くなると挨拶しました。そのあとミャンマーの今について、ミャンマーから来日中のNaingさんとAungさん・岐阜大名誉教授の仲澤和馬さんから報告がありました。参加者は24名でした。終了後、会場で集められた**ミャンマー支援のカンパ41600円**がミャンマーからのお二人に託されました。我が日本国はミャンマー軍事政権といろいろな繋がりが続き、現在のミャンマーは私達と無縁ではありません。（以下、当日の報告です。）



### 1 最近のミャンマーの政治状況

2021年のクーデター以来、ミャンマーは深刻な政治的、人権的、人道的な危機に陥っている。軍事政権による大量の逮捕・勾留・殺害は続き、政党の解散・デジタル監視の強化・徴兵制の復活など軍事政権の圧力は「強まっている」。しかし民主化運動家や民族武装集団からの広範な抵抗に直面し、**全土の60%をNUG（民主統一政府）が掌握している**。軍事政権はヤンゴンなど平野部だけを抑えているに過ぎない。

### 2 ミャンマーの教育

クーデター後の教育状況は、コロナ感染やクーデターへの抵抗などで登校拒否が90%に上るなど極めて悪化している。しかし**NUG**は、国際的な支援や**NUG** 掌握地域からの寄付、宝くじなどで資金を調達し、独自の教育システムを作っている。

### 3 ミャンマーの市民生活

政情不安のために数千人が国外に逃れ、全土で270万人以上が国内避難民、2500万人が人道支援を必要としている。中でも少数民族や女性・性的少数者が軍から攻撃されている。

多くの企業が閉鎖され、失業者が溢れている。人々は物々交換やインフォーマルな活動で生計を支えているが、生活必需品へのアクセスはとても困難だ。多くの人が飢えと餓死に直面している。

経済の衰退と悪性のインフレ（貧困と高い失業率）、インフラの壊滅状態、残忍で腐敗した軍政、異常な熱波などによりミャンマーでは近年で最悪の人道危機となっている。最高気温が40～45℃となる暑さのために4月だけで1473人が亡くなっ



た。汚職と犯罪も蔓延し、犯罪率世界トップの統計もある。ロヒンギヤの人々に対して強制労働を課す事例もある。

#### 4 国内・海外の支援者（裏面へ）

国内では仏教僧院など宗教団体や地域団体が、人道援助とくに食料や住居の提供をしている。国際非政府組織(NGO)や外国政府、海外ミャンマー人社会などからも、財政的・物質的・人権擁護などの支援を受けている。

#### 5 NUGによる民主主義のための戦略、日本はNUGへの支援を

NUGの戦略は次のようなものだ。軍の篡奪を覆す・軍隊の文民統制・軍が国会の25%を占める2008年憲法を破棄する・国民全体の合意形成・民主連邦国家の設立などだ。特に連邦国家に移行する前に民主主義システムを確立することが大切だ。

そして日本はミャンマーの重要な支援国であり、今までに教育や農業・工業などを支援してくれた。しかし今も続く自衛隊によるミャンマー軍人の訓練はやめるべきだ。訓練された軍人は帰国後に幹部となり、市民弾圧も行う。インドもミャンマー軍に航空燃料や武器の支援をしており、5月15日来日したNUGの代表団は日本政府に対し、インドに軍への支援を止める圧力をかけてほしいと要請した。また同代表団は日本政府の人道支援は極めて重要であり、軍事政権経由ではなく、NUGを通じて実施することも求めた。

最後に会場からNUG（民主統一政府）についての質問に、次のように答えてお話は終わりました。

NUGは、平野部のNLD（スーチーさんが率いる政党）などの民主派勢力と少数民族組織との共闘で成立した政権で、その結果国土の60%を抑えている。NUGの副大統領は少数民族組織の出身だ。国土の中央にある平野部に住むビルマ民族だけでなくたくさんの少数民族があることから、日本のような国民国家ではなくアメリカ合衆国のような連邦制国家を目指している。

#### 参加者からの感想です

- ・今日来てよかったです。今まであまりわからないままでした。今後ミャンマーの民主化の情報をチェックしていきます。知らないままでいる知人たちへ発信できればと思います。NaingさんAungさんありがとうございました。仲澤先生も頑張ってください感謝です。
- ・ミャンマーの現状について、豊富な資料をいただき関心を深めることができました。よく読んでいっそうミャンマーの問題を考えていきたいです。

#### ミャンマーから領収書が届きました

集会后Naingさんが集まったカンパに上乗せして合計100万Kyats（ミャンマーの通貨）をパゴ（ミャンマーの都市）地区のPDF（国民防衛隊）に送ったところ、鳥丸宛に領収書が送られてきました。小さくて見にくいのですが右の画像です。



## 2024 「ぎふ平和のつどい」のお知らせ

毎年11月3日（日本国憲法公布の日）に行われていた「ぎふ平和のつどい」ですが、今年は「国民文化祭」が岐阜県で開かれる関係でこの時期の市民会館が使えず、前にもお知らせしたように今年は10月6日（日）となりました。詳しくは別紙チラシをご覧ください。

### 今年の講演者は、中村 梧郎さん 「戦争はしないさせない～私の取材体験から」

主な著書 「母は枯葉剤を浴びた」（岩波現代文庫） 「記者狙撃」（花伝社）

### 前半の出演者は、今里 哲さん 「哲ちゃん 愛と平和を歌う」

今里さんには2年前の8月第60回例会で「人権について考える」と題して、たっぷりと語り歌っていただきました。今回は30分と短い時間ですがとても楽しみです。

## 柴橋岐阜市長イスラエル訪問に抗議

すでに新聞各紙やNHKなどで報じられていますが、柴橋市長が5月下旬イスラエルを訪問、ガザの惨状には目をつぶり、イスラエルを擁護する活動を行いました。柴橋氏は個人として行ったから「問題なし」としていますが、現地では岐阜市長と紹介され、明らかに公人扱いです。6月13日市長に対して、岐阜九条の会は他団体と共に強く抗議するとともに次のような要請をしました。

- (1) 市長は、昨年10月に日本のイスラエル大使館に行って、「ハマスのテロ攻撃」を一時的に批判する声明を提出しました。その際私たちはこの声明の撤回を求めました。今回はこれに続くものです。改めて、イスラエル滞在中の一方的なイスラエル擁護の発言を撤回して下さい。
- (2) 岐阜市は非核平和都市宣言をしています。その市長として、イスラエルによるガザへの虐殺攻撃を止め、恒久的な停戦が実現するよう、日本政府をはじめ、国内外の各方面に働きかけて下さい。

- (3) 今回の訪問を市長は私的な行動だと言っていますが、そうだとした場合でも公職である市長は、公開の場での自らの信仰に基づいた言動は慎まなければなりません。この件に関して心からの反省を表明願います。